



今あの方は、確に直つたと仰しやるけれども、私  
は家の中で、何一つ見る事が出来ません」

象のお話 (二)

前回には、森の中の象のお話をしましたが、今度は、少し、馴れた象のお話をして見ましよう。  
前にも申しました通りセイロン島の森には、澤山な象の群が棲まつて居りますが、土人は彼等を生け擒つて来て、だん／＼に馴らして、おしまひには、橋を架けたり家を建てたりするに、いろいろな仕事をして、大變役に立つ様になります。  
象の中には、まことに綿密に注意がよく行き届く者がありまして、例令ば言ひ付けられた通りに材木なり煉瓦なりを並べる時などは、一度並べて見て夫から、二三尺後へよつて、眞直に並んで居る

がどうかを見て、少しでも曲つて居ると、又チャ  
ンと置き直したり何か致します。

或年のこと、此島で二里許りの間の處へ、水道を  
引く爲めに、鐵管を埋める仕事がありまして、土  
木師は、澤山な象を連れて来て、其仕事を手傳は  
せました、其時、象どもの仕事をやる風といつた  
ら、中々面白い見物でした。

先づ、澤山な重い鐵管を、一本づゝ鼻の先に引つ  
掛けながら、皆一所に進んで行つて、さて丁度言  
ひ付けられた場所へ來ますと、チェーンと膝を折  
つて其處に夫々並べました。

何時でしたか又、此島のある所で、いろ／＼な野  
獸の觀せ物がありました。澤山な見物人の中に、  
一人の麵麩焼きがありました、其野獸の中に、音  
なし象のあるのを見て、よせばよいに一番苛め

てやらうなど考へて、ポケットから、菓子を出  
して象にやる風を見せて、鼻で取りに來ると、ひ  
よいと引つ込め／＼して居ました所が、暫くは、  
象も我慢して取りに來て居ましたが、とう／＼仕  
舞ひに怒り出して、不意、長い鼻を伸ばしたと見  
る中に、彼の麵麩焼きを巻き込んで、高い天井を  
目がけて、非常な力で以て、頭をドン／＼と打  
つ付けました、見物人一同は、手に汗を握つて、  
多分は殺されるのだらうと思つて心配して居ます  
けど、何ともすることが出來ません、暫くすると  
象は、俄に鼻をゆるめて、見物人の真中へ、彼の  
男を投げ出しました、けれども幸に怪我はしなか  
つた相ですが、随分吃驚した事でしょう。

又、或時のこと、印度のある市街で、一人の貧し  
い女が、市場で菓物店を開いて居りました。所が

何時も、一匹の象が、此店の側を通つては、立ち止まつて見て居ますから、その女が、時々藥物を與へて居りました。

所が、或日のこと、番人の仕打が氣に入らなかつたものか、此象先生甚く荒れ出して、市場を彼方此方と跳び廻はつて、前に來るものは、何んでも乎でも履み瀾つて、暴れました。

皆は大騒ぎをして逃げ出した、彼の女も店を放つて逃げ出しましたが、餘り狼狽で、肝要の子供が店先きに居たのを氣が付かないで、放つて置いて來ました。

所が、象は其處へ來ると、ピタリ止つて、彼の子供を眺めて居ましたが、やがて、鼻で以て、道の側へそつと寄せて通いて通つて行きました。

日露戦争福引四題

題 品 物 答

(一) 明日の號外 マツチ十個 おま、ちとー

(二) 敗餘の露艦 新らしい割箸 何れにはんのものとなる。

(三) 此頃のアレキシーフ色鉛筆 青くなつたり赤くなつたり。

(四) 日露戦争 カメラア ロシアまけ

笑話

ある人が、畑の側を歩いて居つた時帽子を風に畑の中へ吹き飛ばされたので、丁度畑で大根を造つて居つた農夫に向つて

『もしく憚りだが、一寸其帽子を取つて下さらぬか』と言ひますと、農夫は此方を見て